# 逆転の発想「ラーメン屋のない町」

山に囲まれた田舎町で、５０人の行列が朝から「その時」を待った。

茨城県境に位置する栃木県茂木町。２０２１年１２月２０日、茨城県土浦市の人気ラーメン店の２号店「特級鶏蕎麦　龍介もてぎ」がオープンした。午前１１時半、開店を待ちわびた客が次々とのれんをくぐる。その様子を、感慨深く眺める男性がいた。同町商工観光課長の滝田隆さん（５４）。店を誘致した仕掛け人だ。「夢に見た行列。感無量です」

人口約１万１千人の茂木町には、国際レースが行われるサーキット場「ツインリンクもてぎ」がある。だが、庶民の味・ラーメンの店は１軒もなかった。町が補助金を用意し、空き店舗を活用して出店者を募ると、全国から問い合わせが相次いだ。ご当地ラーメンによる地域おこしは数多いが、ラーメン店がないことを逆手に取る例は珍しい。

休日にはラーメンを食べ歩くという滝田さんは、「田んぼの中にあるラーメン店に行列ができる光景を見てきた」。その集客力に着目し、若手職員の提案でチラシを作った。「ラーメン屋求む！」「ラーメン好きは日々の楽しみを失い、仕事が手につかない人もいるとか…」とユーモアたっぷりにアピールすると、会員制交流サイト（ＳＮＳ）で話題となり、拡散した。

町の人口は２０４５年、約５３００人に半減すると推計され、過疎化が進む。人口減に歯止めを掛けるには交流人口、関係人口を増やし、移住・定住につなげることが求められる。

ラーメンを目当てに来訪者が増えれば、次は町そのものの魅力を感じてもらわなくてはならない。滝田さんは「出店を増やし、ラーメンイベントも開きたい。食べに来た人に地元で買い物をしてもらう取り組みも考えたい」と意気込む。

新型コロナ禍で、「食」を生かした地域おこしは困難に直面している。そんな中で始まった小さな町の新たな挑戦。無から有を生み出す逆転の発想には、持続可能な地域づくりへの一つのヒントがある。

下野新聞社　地域センター長　三浦一久

オープン直後に「龍介もてぎ」の麺を味わう来店客
＝２０２１年１２月２０日、栃木県茂木町

待望のオープンを迎えた「龍介もてぎ」
＝２０２１年１２月２０日、栃木県茂木町